

小学校外国語科の Small Talk における指導者の役割に関する一考察 －誤り訂正に関する対応－

A Study on the Role of the Teacher during Small Talk in Elementary School English Course Handling Correspondence Regarding Corrective Feedback

中野 聡

要旨

小学校外国語科指導者と小学生の行う Small Talk において、誤り訂正 (Corrective Feedback) が実際にどのように行われているか。また、指導者は、実行している誤り訂正に対してどのような意識を持っているのか。以上の2点について調査した。その結果、次のことが確認できた。(1) 誤り訂正では、Lyster & Ranta (1997) の分類した6つの方法の中で「リキャスト」「明示的な訂正」「明確化要求」の使用が確認できた。(2) Lyster & Rantaの示した分類方法以外に、誤り訂正のために「選択肢提示」「間違い回答に対する正しい質問」「意味理解のできない単語を含む例文を示す」等が確認できた。(3) 指導者は、誤り訂正を素直に受け入れそうな児童に対しては、「明示的な訂正」を行う傾向にある。また、誤り訂正を躊躇する気持ちは、他教科の指導方法が影響をしている可能性がある。

キーワード：小学校外国語科 (foreign language education of elementary schools)／
スモールトーク (Small Talk)／ 誤り訂正 (corrective feedback)

I はじめに

1 Small Talk

文科省は、「話すこと〔やり取り〕」に関わって「Small Talk」の実施を小学校外国語科において促している。Small Talkの効果、話題設定の工夫、クラス全体での進め方・配慮事項について実践や調査が進んでいる。中野 (2023) では、外国語科指導者と児童とが行う Small Talk において会話修復がどのように行われているのかを明らかにした。具体的には、2つの視点を持って調査した。1つは、指導者が、学習者との「やり取り」で学習者の反応に対してどのような指導が可能であり、効果的なのかを「認識」すること。もう1つは、熟達した指導者は、指導場面の試行錯誤によって指導力を身に付けることで「技」をもった即興的思

考に優れた熟達した指導者（以下「適応的熟達者」）に成長することができると考えること。この2点を踏まえて、その指導力を身に付けつつある若手指導者が、具体的にどのように会話修復をおこなっているのかを明らかにした。

一方、Small Talk において、児童の発言の誤りなどがあった場合、指導者がどのように働きかけをすることが可能なのか、実際にどのように働きかけをしているかという現状に対しては十分な調査があるとは言えない。

そこで、今回は Small Talk における児童の誤りに対して、適応的熟達者に成長する過程でどのような誤り訂正 (corrective feedback: 以下 CF) に関する実行を行うのか、また実行に対して上で述べた指導力を身に付けつつある若手指導者がどのような意識をもっているのかを明らかにする。

NAKANO, Satoshi

北陸学院大学 教育学部 初等中等教育学科
小学校英語科教育法、インテンシブ・リーディング

2 誤り訂正

小学校における Small Talk の目的は、文部科学省 (2017) によれば「既習表現を繰り返し使用できるようにしてその定着を図ること」「対話の続け方を指導すること」である。したがって既習事項の定着を図る際には、誤りについて何らかの対応が求められる。内野 (2021) では、「訂正フィードバック (CF) とは、正しい表現や知識の定着を促すために学習者の発話に対して教師が行う声掛けの総称」と定義している。リキャストやフィードバック等、様々な方法がある。広義のフィードバックでは、学習者の応答内容の適切性判断や評価、奨励などが含まれるが、ここでは、訂正に絞って考える。その背景として、Small Talk は、Corder (1967)、Selinker (1997) の言う母語でもない、目標言語でもない、その途中段階にある言語を意味する。Small Talk によって児童が使用する「中間言語」を指導者が知る機会となる。また、Swain (1993, 1995) の言う児童は、L2 で言いたいことと自分の知識で言えることの間のギャップに気づき、既存の知識で新しい表現が可能かどうかを試す仮説検証の効果も期待できる。Sheen (2008) は、不安が低い学習者にはリキャストが効果的であり、Dekeyser (1993) は、口頭による誤り訂正 (Oral Corrective Feedback: 以下 OCF) は不安が低い学習者に効果的であると報告している。Mori (2000) は、小学校低学年よりも高学年の児童の方が、CF の直後に学習者がより正確に発言しているなどアップテイクしていることを報告している。畑佐・藤原 (2012) は、中級の日本語学習者を対象とした調査から、指導者は文法、語彙、発音などに対する誤り訂正を行っていた。具体的方法としては、リキャストと誘導を多用していることが明らかになった。

こうしたことから、学習者の年齢や性格などを考慮して適切な CF が行える「認識」とその認識に基づいて「行為」に結び付けられる力を指導者が身に付けることが大切になる。これらの指導によって、児童が英語でやり取りする力を高め、既習事項の定着と会話の続け方を身に付けることが期待できる。加えて、大関 (2015) では、「子どもを対象とした研究がより多く実施されることを期待したい」と述べている。

3 訂正フィードバックの分類方法

名部井 (2015) は、1970年代のエラー・トリートメント研究では、教師が授業中に実践するエラー対処法の類型化が行われたことを指摘した。その具体として Allwright (1975) は、教師は、学習者に誤りがあること、誤りの問題点、誤りの位置、誤りの種類を示し、さらに正用提示、学習者に対するエラー修正要求、自己訂正の機会の提供、学習者の訂正による改善の認知、努力と成果への称揚などが対応として認められると述べている。

また、Lyster and Mori (2006) では、カウンターバランス仮説を提唱し、学習環境がもたらす学習者の意味や形式への志向の違いにより、効果的な CF が違うと述べている。具体的には、意味に焦点が向く場合には、形式に焦点が向けられる指導者が直接訂正しない働きかけが効果的である。一方、形式に焦点が向く授業のような学習環境では、意味に焦点が向けられ、基本的に意味を変えずに、正しい言い方に直すリキャストが効果的であるという。

そして、名部井 (2015) は、「Doughty (1993) が第二言語取得 (SLA) 研究、特に『指導を受ける環境での第二言語習得研究』に導入してから20年、リキャストとそれを含む口頭での訂正 CF (OCF) に関する研究調査は SLA 研究文献の中で大きな割合を占めてきた。」と述べている。

4 今回使用する分類方法

ここまで述べたことから、CF には、さまざまな方法があることがわかる。今回は、Lyster & Ranta (1997) の「訂正フィードバックの分類」を中心に、使用する。

表1 「訂正フィードバック (Corrective feedback) の分類」 (Lyster & Ranta (1997) を参考に作成)

No.	分類名称	概要/具体例
1	リキャスト (recast)	学習者の意図した発言の正しい表現への言い換えをする。

No.	分類名称	概要/具体例
		<p>/過去形が正しく使えない。Yesterday I go to school という発言に対して Yesterday I went to school.</p> <p>学習者の日本語による発言を英語に言い換える。「やらないけど、見るのは好き。」という発言に対して、You don't play it, but you like watching the game.</p>
2	明示的訂正 (explicit correction)	<p>誤りがあることを知らせ、さらに正しい表現を提示する。</p> <p>/You (should) say “ . ”</p> <p>Not go. I went.</p>
3	明確化要求 (clarification request)	<p>相手に言い直しをさせるため「もう一度言ってください。」「すみません」などと依頼する。聞き取りにくかった部分を問い直す。</p> <p>/I' m sorry? Pardon?</p> <p>The statue of what?</p>
4	メタ認知的修正 (metalinguistic feedback)	<p>言語的エラーがあることを示唆するコメントや質問をする。</p> <p>/You need to use the past tense.</p> <p>「過去の出来事を表すには、動詞を何形にする？」</p>

No.	分類名称	概要/具体例
5	誘導 (elicitation)	<p>学習者に自己訂正させるために、エラー手前までの発話を繰り返したり、エラー部分について正用を求める質問をしたりする。</p> <p>/Yesterday I …?</p>
6	繰り返し (repetition)	<p>相手の誤った表現を上昇イントネーションで繰り返す。</p> <p>/Yesterday I go to school? ↑</p>

改めて、6つの視点とは、①リキャスト学習 (recast) 者の意図した発言の正しい表現への言い換えをする。②明示的訂正 (explicit correction) 誤りがあることを知らせ、さらに正しい表現を提示する。③明確化要求 (clarification correction) 相手に言い直しをさせるため「もう一度言ってください。」「すみません」などと依頼する。あるいは、聞きにくかった部分の前を繰り返し、聞き取れなかった部分を What? で問い直す。④メタ言語的修正 (metalinguistic feedback) 言語的エラーがあることを示唆するコメントや質問をする。⑤誘導 (elicitation) 学習者に自己訂正させるため、エラー手前までの発話を繰り返したり、エラー部分について正用を求める質問をする。⑥繰り返し (repetition) 相手の誤った表現を上昇イントネーションで繰り返す。である。

この分析の視点を活用する理由は、指導者が、分類が6項目と簡潔で、内容も分かりやすいことから指導力向上の視点としても活用が期待されること、また現在よくCF研究でも使われる視点であることからである。

5 分析方法

分析者は、Small Talkの様子をビデオ録画する。その後、ビデオ録画したデータを書き起こす。田窪他(2004)では「言語の構造と意味に関する規則性を追究するためには談話の研究が不可欠である。有機的、総合的な言語理論の構築に談話研究

が役立つはずである。」という考え方は、串田(2006)の「会話におけるトランスクリプション作成はテープおこしという単純作業とは似て非なるもので、それまで見えていなかった／聞こえていなかったものを見える／聞こえるようにしていくための、一種の気づきのテクノロジーである。十分に厳格なトランスクリプトを作成するためには、ふだん使わないような形で目や耳を使わなければならない、そこには一種の知覚・感覚の再編成が含まれている。」とする見解と重なる。

全体の書き起こし後、串田の言う「第一に注目する現象を含む前後のやりとりの詳細について調べること、第二に、それを通じて、参加者の振る舞いによって解いている問題をみつける」ともある通り、分析者はどこにCFがみられるのか確認していく。その過程で、CFの開始と実行が行われている場面を特定する。開始とは、誤り発言の場面を意味する。その直後に指導者によりCFが行われて、場合によっては指導者の修正を意識したintakeが行われる。その結果、学習者が正しく言い直しをして終了する場合もあり、黙ったまうなずいて終わることもある。あるいは、話題転換が起こる場合もある。これらのことを意識しながら、分析者は録画場面に複数回目を通してCFの場面を特定する。(以下「CF断片」)これらによって、通常は気づきにくい困難や秩序だった現象を発見できること。分析者が教師発言に対して理解を深めようとするためには、授業者の振り返りの発言も参考になること、発話者である指導者がすべてを理解しているわけでないが、分析者の理解を助けるものとなりえるというなどの可能性がある。

Ⅱ 研究調査

1 研究課題

- (1) 適応的熟達者を目指す指導者は、児童とのSmall Talkにおいて、児童が誤り発言をした時、どのような訂正フィードバック(CF)をするのか。
- (2) 本指導者は、これらの訂正フィードバック(CF)についてどのような意識をもっているのか。

どのような場面でどのようにCFが行われているか。また、指導者はCFに関してどのような認識を持っているのか、またある行為は、どのような認識に基づいて行われたのかを明らかにしたい。

また、分析者による指導者への質問やある「行為」に関する気持ちなどを聞き出すことで、CFに関する指導者の意識を明らかにしたい。こうしたことを通してこの調査からわかったことが、適応的熟達者を目指す若手指導者の指導力向上のヒントとなるものと考ええる。

2 具体方法

小学校卒業を控えた時期(2021年2月18日6校時、19日5校時)に、これまでの外国語科学習の復習の1つとして「Unit3 Let's go to Italy. ～おすすめの国を紹介しよう～」についてSmall Talkを実施した。

会場は、小学校教材室を借用した。当初、Small Talkの様子を指導者と児童の1対1で実施する予定であった。No. 8、9、14、15、16は、「友達と一緒に撮影するなら安心するからやってみよう」等の理由で児童がもう一人いる状況となった。Small Talkの様子をすべてビデオ録画した。

構成は、前後半に分かれており、前半は指導者が行ってみたい国、そこでできること、そこで食べられるものについて英語でやり取りした。(資料1「Small Talk『Unit3 Let's go to Italy.』実施計画」)

後半は、児童が行ってみたい国について語るところからやり取りに発展した。静岡県A小学校の6年生C組。学級全体(31人)に問いかけ、17人の希望者を対象に撮影を行った。指導者Bと児童の1対1でSmall Talkする状況をビデオ録画し、分析者は録画ビデオをもとに、3回から5回の確認をしながら書き起こしを行った。

その後、書き起こし原稿について指導者Bにも確認を依頼した。依頼事項は、①筆者が聞き取れなかったところは、どのようなやり取りがなされたのか。②筆者が解釈できない場面について、どのようないきさつ、あるいは気持ちだったのか。③指導者Bがある場面での特定の発言や働きかけをしたのは、どのような気持ちや考えからか。である。

分析者の最初のビデオ分析では、確認しにくかった発話も指導者は自らの発話や児童とのやり取りの中であったことなので、どのようなやり取りだったと記憶しており、その情報をもとに分析者が再度ビデオを聞きとって確認できたところが多かった。CF場面の確定をし、それぞれのCFが Lyster & Ranta (1997) の6つの分析のどれに該当するのか、しないのか検討した。

3 データ収集対象者

静岡県A市 公立小学校6年生17名（男子5名、女子12名）ビデオ録画、会話分析について本人、保護者とも協力を承諾した児童。7名（No. 1～No. 7）は、指導者が比較的積極的に依頼した児童。10名（No. 8～No. 17）は、自ら参加を希望した児童。

対象指導者である指導者B教職経験7年目の男性教員。教員免許は「小学校教諭1種免許状」を取得。英語科教員免許は所持しないが、国語教育、英語教育に特に熱心である。国語教育では、全国規模の研究会で実践報告をして高い評価をされている。また、英語教育についても熱心で、校内研修会や、市内研修会の代表授業者となって公開授業を複数回している。英語教育に関する指導力向上のために自ら意識して努力を重ねている。今回の調査の対象児童の学級担任でもある。

Ⅲ 結果と考察

1 全体的傾向

実際に会話分析の方法で書き起こした結果、Small Talkの実施時間は、2分25秒から4分25秒とばらつきがある。児童全員が、「資料1」で示した前半・後半の活動をすべて行っている。まず、指導者Bは、児童とのやりとりを重ねながら児童の誤りを認知し、その場に応じてCFを行っている。適切な訂正を心掛け、児童1人に対して1～4か所OCFが行われている。

一方で、また、CFが行われていない児童もいた。この対象であるNo. 2, No. 6, No. 13は、ほぼ間違いがない、間違いはあるが指導者が聞き逃している、児童の沈黙に対する指導者の対応はあったが、CFではないなどの理由から0回となっている。詳しくは下の表のとおりである。

表2 「指導者Bによる児童別CF頻度」

児童 No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
CF 頻度	1	0	4	0	3	0	1	2	1
児童 No.	10	11	12	13	14	15	16	17	計
CF 頻度	3	3	1	0	3	1	1	3	27

2 Lyster & Ranta (1997) のCF分類関連

Lyster & Rantaの分析視点に当てはまる具体的なCF断片がいくつかみられる。

これらのCF場面は、Lyster & Ranta (1997) の分析視点に当てはまる例、CF断片もいくつかみられる。具体は以下にあげる。

表3 「リキャスト (recast) 例」
(No. 15の断片)

12	T	:	Oh. I like America, too. America is a nice country.
			あつ、私もアメリカが好きです。アメリカは、良い国です。
13	T	:	You can watch a baseball game in America. Do you like baseball?
			あなたは、アメリカで野球を見ることができます。あなたは野球が好きですか。
14	S	:	見るのは好きだけど、やるのはあんまり好きじゃない。
15	T	:	なるほど。Haha.
16	T	:	You like watching baseball games, but you don't like playing baseball.
			あなたは、野球の試合を見ることが好きです。しかし、野球をすることは好きではないです。
17	S	:	((うなづく))

児童No. 15は、13の質問は理解している。この質問に対して「見るのは好きだけど、やるのはあんまり好きじゃない。」と答えたい気持ちになったが、英語で言うことができず、日本語発言となった。それに対して、指導者は、16で英語による正しい言い換えをしている。

表4 「明示的訂正 (explicit correction) 例」
(No. 8の断片)

29	T	:	Bengawan cookie. What is Bengawan cookie? Is it chocolate cookie? Butter cookie?
			ブンガワンクッキー。ブンガワンクッキーって何ですか。それは、チョコレートクッキーですか。それともバタークッキーですか。
30	S	:	(4)
31	T	:	You don't know? ↑
			知らないのですか。
32	S	:	You don't know.
			あなたは、知らないです。
33	T	:	O.K. You say "I don't know."
			いいですよ。あなたは、「私は知りません」というべきです。

児童No. 8は、シンガポールを行ってみたい国として話した。「ブンガワンクッキー」について知らなかった指導者が“What is Bengawan cookie?”と尋ねた。沈黙が4秒ほど続いたので、“You don't know. ↑”と指導者Bが尋ねた。それに対して“You don't know. ↓”と指導者の発言を下降調で繰り返した。指導者Bが“O.K. You say “I don't know.””と指導した例である。この指導者の発言に対してのintakeは、特になく児童は、“It's delicious.”と話している。

児童No. 5は、好きな本について会話している。お気に入りの本を問われて5秒ほど沈黙があった。その後、指導者Bは児童No. 5に対して、(Holley Potter?) とやや小さな声で選択肢を与えている。後日指導者Bは、「この児童が、数日前の読書の

表5 「明確化要求 (clarification request)」
(No. 5の断片)

30	T	:	What's your favorite book?
			((本を読むしぐさを示して))お気に入りの本は何ですか。
31	S	:	(5) Umm
			ええと
32	T	:	(Holley Potter?)
			(ハリーポッター?)
33	S	:	(um Holley Potter?)
			(ハリーポッター?)
34	T	:	Holley Potter?
			ハリーポッター?
35	S	:	
			((かるくうなずく))

時間にこの本を手にしていたことを思い出してこの発言をした。」と語っている。

一方、Lyster & Ranta (1997) に示された「メタ認知的修正 (metalinguistic feedback)」、「誘導 (elicitation)」、「繰り返し (repetition)」は、今回の17名の児童と指導者BとのSmall Talkにはみられなかった。

3 その他のCF

Lyster & Ranta (1997) 「訂正フィードバックの分類」では、分類しにくいSmall Talkについて以下に挙げる。

ここでは、まず指導者Bが中国を好きという話題を提供している。指導者Bが、児童No. 4に対して「どんな中国料理が好きか。」と尋ねたのに対して、児童No. 4は、“Yes, I do.”と誤った回答をしている。それに対して指導者は、「中華料理で何が好きですかと聞いている」ということを伝えるために写真を見せながら中華料理名をいくつか言っている。その後、改めて“What kind of Chinese food? Do you like?”と尋ね直した。児童No. 4は、“Gyoza”と答えている。

指導者Bが中華料理を具体的にあげることによって児童No. 4は料理のことを聞かれているこ

表6 「絵で回答例を示し、直後に質問を繰り返す」
(No. 4の断片)

25	T	:	There are Chinese food.
			((中国料理の写真を見せながら))中国の食べ物がここにあります。
26	T	:	What kinds of Chinese food do you like?
			どんな中国料理が好きですか。
27	S	:	(7) Yes, I do.
			はい好きです。((質問の意図が分かっていないか、あるいは料理の名称が難しくって言えないのか。))
28	T	:	Mm Gyoza, Shark fin soup, Ramen, Shrimp chili, Peking duck,
			あの、餃子、ふかひれスープ、ラーメン、エビチリ、北京ダック
29	T	:	Egg foo young, Pepper steak.
			中国オムレツ、チンジャオロース
30	T	:	Do you like ..what kind of Chinese food? Do you like?
			あなたは好きですか。どの中国料理が、好きですか。
31	S	:	Gyoza
			餃子

とを理解し、回答している。

“How are you?”という指導者Bの問いに対して天気を聞かれたのだと勘違いしたと思われる児童No. 4は、“It’s sunny.”と答えている。指導者Bは、敢えて“It’s sunny.”が答えとなる質問“How’s the weather today?”と問いかけることで間違いに気づかせたいと考えた。児童No. 4は、その誤りに気付いたため“Ah,”と声を上げた後に正しい答えを言っている。

最初の挨拶で、誤りが起こることについて指導

表7 「あえて間違えた答えに対する正しい質問をする」
(No. 4の断片)

1	T	:	How are you today?
			元気ですか。
2	S	:	It's sunny.
			良い天気です
3	T	:	How's the weather today?
			今日の天気はどうですか。
4	T	:	When it is sunny, how are you?
			天気が良い時は、どんな気分ですか。
5	S	:	Ah, I'm fine.
			((自分の間違いに気づいた様で))あっ、気分がよいです。
6	T	:	Oh, you are fine. Thank you.
			あ、気分がいいんですね。あがとう。

者は、「『撮影されている』という意識が、児童も教師も緊張させた。特に、“How are you?”という基本的な問い掛けに言葉をつまらせる児童が多かった。」と認識している。また、「リアクションも乏しく、教師の反応もワンパターンになってしまった。教師の緊張が児童にも伝わっていたように感じる。」とも述べている。

表8 「不安に感じながらした児童の発言に正しい言い方を示す」
(No. 17の断片)

2	T	:	Hello. How are you?
			こんにちは。調子はどうですか。
3	S	:	eh, good ?
			えっと。よい？
4	T	:	You are good. ↑
			あなたは、調子がいいのですね。
5	S	:	Good. ↓
			いいんです。

これも、会話の冒頭である。指導者Bが“*How are you?*”と尋ねたのに対して、児童No. 17は、“*eh, good?* ↑”と自信なさそうに、上昇調で確認している。それに対して指導者は、“*You are good.*”と言いつけている。Recastの一種ともいえそうだが、児童の自信のなさから“*good?* ↑”と聞き返すように発言したことは、まったくの間違い発言ではないが、指導者Bはより正しい音調、正しい文で答えさせたいと思いCFを行った。

4 分析者BのCFに対する意識

指導者Bは、対象児童によってCFの仕方が異なっていると認識している。

表9 「CFに関する意識の特徴を示唆する事例」
(No. 8の断片)

28	S	:	You can eat Bengawan cookie.
			あなたは、ブンガワンクッキーを食べることができます。
29	T	:	Bengawan cookie. What is Bengawan cookie? Is it chocolate cookie? Butter cookie?
			ブンガワンクッキー。ブンガワンクッキーって何ですか。それは、チョコレートクッキーですか。それともバタークッキーですか。
30	S	:	(4)
31	T	:	You don't know? ↑
			知らないのですか。
32	S	:	You don't know.
			あなたは、知らないです。
33	T	:	O.K. You say" I don't know."
			いいですよ。あなたは、「私は知りません」というべきです。

“*You don't know.*”と発言した児童No. 8に対して指導者Bは、“*You say “I don't know.”*”とCFを

おこなっている。この点について事後、分析者が、指導者Bに対して「こういうべきである」と明示的な訂正をしているという点で珍しい事例であることを伝えたところ、当初「本児は素直で誠実で、指導を受け止めて生かそうとしてくれる児童でした。」とコメントしている。

分析者が、重ねてこの点について「別の児童が同じような誤りをした場合、どうされたと思うか。」と尋ねたところ、「どの児童に対しても『明示的な訂正』をするべきだし、したいと感じました。しかし、人間関係がうまく構築できていなかったり、その時の焦りや状況等だったりを勘案すると、聞き流すこともあると思いました。もし、それでも何らかの訂正をするとしたら、*Nice English!*などと価値付けた上で、*You say “I don't know.”*と言うのだと思います。」と回答している。加えて「自分が児童の心情を勝手に忖度して、「明示的な訂正」を避けているのかもしれないと感じました。」「国語や算数での児童の発言で、『明らかに違う』と授業者が感じることも、それを評価したり訂正したりすることはなるべく避け、他の児童の指摘や訂正を待つようにしている節がある。よく言えば、授業づくりのために意識している癖が少なからず影響しているのかもしれない。」と率直に語っている。

リキャストする場合は、できるだけ正しい英文を児童に与えるのがいいと言われている。これは1つのメッセージを複数の表現方法で表す冗長性とも関連する。例えば、*Let's Try!* 2の「好きな色を一つえらんで、その色の文字について友だちとたずね合い、相手の選んだ色を当てよう。」での指導者用テキストの会話例は、

A : *What's my favorite color? Please guess.*

B : *OK. Do you have a “w”?*

A : *No, I don't. I don't have a “w.”*

と示されている。

これを関連付けて言えば、児童No. 6断片における31は、“*Canada. You like Canada.*”などの付け加えが望ましい。このことについて、指導者Bは、「意味伝達に意識が向いているので、余裕があると“*You like Canada.*”など付け加えの文を言っている。意味伝達に意識が向いている、あるいは全体の進行の都合で時間をそれほど取れないなどの気

表10 「CFの不十分な例」(No. 6の断片)

29	T	:	Which country do you like ?
			あなたはどの国が好きですか。
30	S	:	Canada.
			カナダ
31	T	:	Canada.
			カナダですね。

持ちが生じている時には、このようになっている。」と振り返っている。

児童に対する気持ちや他の教科も含む指導法等に関する指導観（ビリーフ）、また時間的な制約などその場の状況などを考えて即興に判断し、指導していることが明らかになった。

今後、熟達の指導者を目指す指導者Bをはじめ、多くの指導者がCFの在り方について学ぶことは意味あることである。まず、Lyster & Ranta(1997)の示す6つのCFについて認識を持つこと、また今回確認できたこの分類以外のCFについて理解をすることが大切であろう。表1で示した「訂正フィードバック分類」に次の表11「追加訂正フィードバック (Corrective Feedback) の分類」としてNo. 7からNo. 10 を次のように加えたい。それは、Lyster & Mori (2006) の言う学習環境がもたらす学習者の意味や形式への志向の違いにより効果的フィードバックが違うという論をとると次のことが言えるのかもしれない。日本人小学生に対するCFは、6つ分類以外の工夫が指導者によって行われている可能性がある。

指導者は、具体的なSmall Talk場面におけるCFを経験することで即興的な対応力が身についてくることを期待したい。そうした経験から、対応に苦慮する場面に会おうであろう。そうした場面において、どのようなCFができるのかを同僚等とも相談しながら考えていくことが有効であろう。例えば、児童No. 6には、次の場面がある。

指導者Bは、この場面について「時間も急いでいたことがある。またfamousの言い換えが思い浮かばなかったので日本語に逃げたと思う。」と事後にふり返っている。仮に51で “Mt.Fuji is famous.

表11 「追加訂正フィードバック (Corrective Feedback) の分類」

7	選択肢提示	What, Whoなどで聞かれたことに対して Yes, No で応答する学習者に自己訂正させるために選択肢を言う。 /What kind of Chinese food do you like? Gyoza, Shark fin soup, ramen, shrimp chili, Peking duck,といくつか例を挙げる。
8	間違い回答に対する正しい質問	間違えた答えに対する正しい質問をすることで、学習者が自己の誤りに気付く/How are you?の回答として It's fine. と答えた学習者に、How's the weather?と尋ねる。
9	その単語を含む例文を示す	学習者が指導者の質問に分からない単語があり、その単語を英語で繰り返した場合、例文でその意味を示す。 /famous?という児童の問いかけに、Mt.Fuji is famous. Otani Shouhei is famous.と語る。
10	カテゴリーを活用する。	学習者が指導者の質問に分からない単語があり、その単語を英語で繰り返した場合、カテゴリー化を活用する。 /spinach がわからない場合、It's a vegetable. Cabbage, lettuce, broccoli, and spinach.

Otani Shohei is famous.”と話し、その後“Maple Syrup is famous in Canada.”と言え、理解ができるかもしれない。こうした可能性を考えていくことは、指導者の力量を高める視点となる。

表12 「分からない単語を日本語で示した例」(No. 6の断片)

46	S	:	Yes. You can buy Maple syrup
			はい。あなたは、メイプルシロップを買うこともできます。
47	T	:	haha. Oh. Third Maple Syrup.
			は。は。三回目のメイプルシロップですね。
48	S	:	Yes.
			はい
49	T	:	Sorry. Maple Syrup is famous in Canada. ↓
			すみません。メイプルシロップは、カナダで有名ですか。
50	S	:	Famous?
			有名？
51	T	:	<i>Yuumei.</i> Nice. O.K.(.) Finish?
			「有名」いいですよ。終わりですか。

V まとめ

1 研究で明らかになったこと

これらのことから、小学校6年生を対象としたSmall TalkにおけるCF指導においては、リキャスト、明示的な訂正、明確化要求がみられたが、他の繰り返し、誘導、メタ言語の手がかりなどは見られなかった。一方予想される答えの候補を絵で示したり、口頭で繰り返すことで正しい発話に導く手法がいくつかの場面で見られた。また、教員の指導力向上という視点から、このようなCFの分類や事例を知ることによって、誤まり発言をした児童に対する即興的CF対応力を上げるのできる可能性を示唆する。そして、こうした分析は、指導者自身の指導観、教育観（ピリーフ）を振り返る機会ともなっている。

2 今後の課題

今回は教職7年目（撮影当時）の教員によるSmall TalkにおけるCFについての分析を行った。今回の分析に関する分析者とのやりとりを通して、授業者は試みたことのないCFの存在があることを知った。指導者は、「Small Talkをする際に指導者がそれを（表1「訂正フィードバック Corrective Feedback」のこと）を意識することは、目的の明確な発話・返答の瞬発力・質を上げるために大切だと感じた。」と述べている。今回の調

査を通して知ったCFについて「認識」した指導者Bが、今後「行為」にまで変化をもたらすことになるのか、どのような変化をどのくらいの期間の後にもたらすのか教職員の指導力の向上という視点で再度調査してみたい。また、現時点でより熟達した指導者は、どのようにCFを行っているのか、他の事例も分析したい。

謝辞

本研究にご協力いただいた、児童の皆さん、先生に深く感謝申し上げます。

〈参考文献〉

- Allwright, R. L. (1975). Problems in the study of the language teacher's treatment of learner error. In M.K. Burt & H.C. Dulay (Eds.), On TESOL 75 96-109. Washington, DC: TESOL.
- Corder, S. R. (1967). The significance of learner's errors. IRAL, 5. 161-170
- DeKeyser, R. (1993). The effect of error correction on L2 grammar knowledge and oral proficiency. Modern Language Journal, 77, 501-514
- Doughty, C. (1993). Fine-tuning of feedback by competent speakers to language learners. J. E. Atatis (Ed.) Georgetown University round table on languages and linguistics, 96-108 Washington, DC: Georgetown University Press

- 畑佐由紀子、藤原ゆかり (2012). 外国語としての日本語の授業における訂正フィードバックの効果 広島大学大学院教育学研究科紀要 第二部 第61号 229-237
- 串田秀也 (2006). 「会話分析の方法と論理—対話データの「質的」分析における妥当性と信頼性」伝康晴・田中ゆかり (編) 『講座社会言語科学6 方法』188-206頁 東京：ひつじ書房
- Lyster, R. & Mori, H. (2006). International feedback and instructional counterbalance. *Studies in Second Language Acquisition*, 28 269-300
- Lyster, R. & Ranta, L. (1997). Corrective feedback and learner uptake: Negotiation of form in communicative classroom. *Studies in Second Language Acquisition* 19 37-66
- 文部科学省 (2017). 小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック 東京：文部科学省
- Mori, H. (2000). Error treatment at difference grade levels in Japanese immersion classroom interaction. *Studies in Language Science*, 1 171-180
- 名部井敏代 (2015). 「ヴァーバル・インタラクションと訂正フィードバック」大関浩美(編) 『フィードバック研究への招待 —第二言語習得とフィードバック—』31-70 東京：くろしお出版
- 中野聡 (2022). 小学校外国語科の Small Talk における指導者の役割に関する一考察 —会話修復に関する対応— 北陸学院大学・短期大学部研究紀要 15 35-49
- 大関浩美 (2015). フィードバック研究への招待—第二言語習得とフィードバック— 東京：くろしお出版
- Selinker, L (1992). *Rediscovering interlanguage*. London: Longman
- Sheen, Y. (2008). Recast, Language anxiety, modified output and L2 learning. *Language Learning* 58 835-874
- Swain, M. (1995). Three functions of output in second language learning. G. Cook & B. Seidlhofer (eds.), *Principle and practice in applied linguistics: Studies in honor of H. G. Winitz*. 125-144 Oxford: OUP
- Swain, M. (1993). The output hypothesis: Just speaking and writing aren't enough. *The Canadian modern Language Review* 50 158-164
- 田窪行則、西山祐司、三藤博、亀山恵、片桐恭弘 (2004). 談話と文脈 東京：岩波書店
- 内野駿介 (2021). 小学生はどのような文法知識を身につけているか？ —これまでの実証研究のまとめから
- 鈴木渉他 (編) 『外国語学習での暗示的・明示的知識の役割とは何か』 東京：大修館書店

資料 1 Small Talk 「Unit3 Let's go to Italy」 実施計画

No.	1 杏	2 さつき	3 つかさ	4 りょうが	5 あずみ	6	7	
	China	China	China	China	America	America	America	
Teacher's Turn	I will ask a question. What is this country? 【反応】 That's right. This country is China. China is a nice country. 【質問】 Do you like China? 【反応】 You like China, too. ① You can see pandas in China. ② You can eat Chinese food in China.							
	【中国料理について】 Do you like Chinese food? What kind of Chinese food do you like? 北京ダック peking duck 餃子 gyoza ふかひれスープ shark fin soup チャーハン fried rice ラーメン ramen (noodle) エビチリ shrimp chili かに玉 egg foo young 青椒肉絲 pepper steak If you like Chinese food, China is a nice country.		【動物について】 Do you like animals? What animals do you like? P.D./PP.12-13 物語 story 絵本 picture book フィクション fiction ファンタジー fantasy 伝記 biography 昔話 old tale		【好きなことについて】 Do you like baseball? Do you like sports? What sports do you like? You like reading books, right? (Do you like reading books?) What kind of book do you like?		【野球について】 Do you like baseball? Do you play baseball? You are a member of <input type="text"/> . What is your baseball position? What kind of baseball team do you like? Can you throw the ball fast?	【スポーツについて】 Do you like baseball? What sports do you like? Can you swim fast? Can you swim the front crawl? Can you swim the butterfly? Do you enjoy playing badminton?
	France Eiffel Tower beautiful Chocolate delicious How about you? What is your favorite country?	France Eiffel Tower tall Macaron sweet How about you? What is your favorite country?	France Eiffel Tower big Macaron sweet How about you? What is your favorite country?	Spain Sagrada Familia beautiful Paella good How about you? What is your favorite country?	Norway Fjord beautiful Salmon delicious How about you? What is your favorite country?	Canada Maple syrup fantastic Maple syrup delicious How about you? What is your favorite country?	Brazil Christ the redeemer big Churrasco delicious How about you? What is your favorite country?	
	①What can I see in France? ②What can I eat in France?	①What can I see in France? ②What can I eat in France?	①What can I see in France? ②What can I eat in France?	①What can I see in Spain? ②What can I eat in Spain?	①What can I see in Norway? ②What can I eat in Norway?	①What can I see in Canada? ②What can I eat in Canada?	①What can I see in brazil? ②What can I eat in brazil?	
Do you like sweets? What kind of sweets do you like?							That's this, right?	
ケーキ cake チョコレート chocolate パンケーキ pancake カステラ castella シュークリーム cream puff パフェ parfait ブリン Pudding アイスクリーム ice cream かき氷 shaved ice			Soccer is popular in Spain. Do you like soccer? Are you soccer player? (Can you play soccer?) What is your position? Which soccer player do you like? It is a famous World Heritage Site.		What do you eat with maple syrup? Bread? Cake? Popcorn? You eat maple syrup with bread.		What is Churrasco? Is it meat? Beef? Chicken? Pork? Do you like meat? What meat do you like?	
What taste do you like?							You like Mackerel.	
Student's Turn								

※ は、教師の紹介する国・GA で児童が紹介した国のメモ